

●抗生剤の溶解後の使用について

2025年6月現在当院院内採用薬品のうち、病棟で比較的使用頻度の高い抗生剤の溶解後の使用期限について示します。

薬剤名 (院内採用薬名、 50音順で記載)	添付文書上の記載
スルバシリン (SBT/ABPC)	溶解後は速やかに使用すること。 特に糖質含有液に溶解した場合、アンピシリンの力価が低下するため速やかに使用し、保存しないこと。
セファゾリン (CEZ)	(バイアル) 溶解後は室温又は冷蔵庫保存で48時間以内に使用すること。 (バッグ) 溶解後は速やかに使用すること。
セフトリアキソン (CTRX)	溶解後は速やかに使用すること。 特にグルタチオン製剤、高濃度アミノ酸類の補液に溶解して使用する場合には留意すること。
セフメタゾール (CMZ)	溶解後は速やかに使用すること。 やむを得ず保存を必要とする場合であっても、室温保存では24時間以内に使用すること。
タゾピペ (TAZ/PIPC)	溶解後は速やかに使用すること。
メロペネム (MEPM)	溶解後は速やかに使用すること。 やむを得ず保存を必要とする場合であっても、生理食塩液に溶解した場合、室温保存では6時間以内に、5°C保存では24時間以内に使用すること。
ワイスタール (SBT/CPZ)	溶解後は速やかに使用すること。 やむを得ず保存を必要とする場合であっても、室温保存では6時間以内に、冷蔵庫保存では48時間以内に使用すること。

薬剤名 (院内採用薬名、 50音順で記載)	補足
スルバシリン (SBT/ABPC)	生理食塩液で溶解したとき、5°Cで保存した場合、室温で保存した場合ともに、6時間後にpHの低下が認められた。また室温保存した場合、24時間後にアンピシリンの含量低下を認めた。(ユナシンのインタビューフォームより)
セファゾリン (CEZ)	(バイアル) 注射用水に溶解したとき、室温・遮光下で48時間、室温・散光下で24時間保存した場合、いずれにおいても外観変化、残存率に著明な低下を認めなかった。 (バッグ) 隔壁開通後、室温室内散乱光下で2日間保存した場合、冷暗所で7日間保存した場合のいずれにおいても、保存期間内では無色透明でpHは4.5~6.5の範囲内、力価(残存率)は90%以上であった。
セフトリアキソン (CTRX)	溶解後、25±2°Cで保存した場合、3時間後に色調変化を認めた。pH、力価(残存率)の著明な変化は認めなかった。 5±1°Cで保存した場合、48時間後まで色調変化、pH、力価(残存率)に著明な変化を認めなかった。
セフメタゾール (CMZ)	溶解後、5±1°Cで保存した場合、48時間後まで外観、pH、含量(残存率)に著明な変化を認めなかった。 25±2°Cで保存した場合、48時間後にpHの低下を認めた。外観、含量(残存率)に著明な変化を認めなかった。

薬剤名 (院内採用薬名、 50音順で記載)	補足
<p style="text-align: center;">タゾピペ (TAZ/PIPC)</p>	<p>注射用水、生理食塩液又はブドウ糖注射液に溶解（45mg力価/mLは生理食塩液、5%ブドウ糖液で調製、225mg力価/mLは注射用水、生理食塩液、5%ブドウ糖液で調製）したとき、室温、室内散乱光で保存した場合、いずれの力価の場合においても24時間後にpHの低下を認めた。外観変化、残存力価、浸透圧比に著明な変化を認めなかった。</p> <p>5°C、遮光で保存した場合、225mg力価/mLでは、72時間後まで外観、残存力価、pH、浸透圧比のいずれも著明な変化を認めなかった。</p> <p>45mg力価/mLでは、72時間後にpHの低下を認めた。外観、残存力価、浸透圧比は著明な変化を認めなかった。</p>
<p style="text-align: center;">メロペネム (MEPM)</p>	<p>生理食塩液または付属の溶解液にて溶解したとき、5°Cで保存した場合、外観、pH、力価に著明な変化を認めなかった。</p> <p>25°Cで保存した場合、9時間後までは外観、pH、力価に著明な変化を認めなかった。24時間後に力価の低下を認めた。</p>
<p style="text-align: center;">ワイスタール (SBT/CPZ)</p>	<p>溶解後、5°Cで保存した場合、48時間後まで外観、pH、力価（残存率）に著明な変化を認めなかった。</p> <p>25°Cで保存した場合、24時間後まで外観、pH、力価（残存率）に著明な変化を認めなかった。</p>